

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第107号

[2018年6月号]

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第107号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へ JAM の最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

<目次> [ページ]

[ミャンマー祭りPR](#)

[スタディツアー参加者募集](#)

[メソトマンスリー](#)

[国内から](#)

[編集後記](#)

[次号の予定](#)



「ミャンマー祭り2018 ようこそリアルなミャンマーへ」

6月30日(土)、7月1日(日)に増上寺にて開催される
「ミャンマー祭り2018-ようこそリアルなミャンマーへ」にて会場ボランティアも募集中です！

JAMは、東京の増上寺で開催される「ミャンマー祭り2018」に出展いたします。

現在、お祭り当日のJAM出展ブースをJAMの事務局と一緒に盛り上げてくださるボランティアさんを募集しています！

お時間をご希望に沿った時間帯で調整をさせていただきます。

1時間でも構いません。

具体的にお願ひしたい内容は、民芸品販売の商品の陳列、販売(店番のお手伝い)、ブースへお越しくくださった方へのチラシやパンフレットの配布等です。

どうぞご支援いただければ非常にありがたく思います。

(ミャンマー祭り2018 JAM担当 白壁)

開催日時 6月30日(日)10:00~18:00, 7月1日(日)10:00~16:00
※雨天決行、荒天中止、延期なし

開催場所 浄土宗大本山 増上寺境内(〒105-0011 東京都港区芝公園 4-7-35)
増上寺までのアクセス

- ・JR線・東京モノレール 浜松町駅より徒歩10分
- ・都営地下鉄三田線 御成門駅 芝公園駅より徒歩3分
- ・都営地下鉄浅草線・大江戸線 大門駅より徒歩5分
- ・都営地下鉄大江戸線 赤羽橋駅より徒歩7分
- ・東京メトロ日比谷線 神谷町駅より徒歩10分

2018年度 JAM スタディーツアー

～ミャンマー／ビルマ難民・移民の取り巻かれている現状を知ろう～

8月 JAM 国境のスタディーツアー参加者募集中！(催行決定)

今年は、**2回**開催予定です！

メータオ・クリニックや国境の移民学校を当会スタッフと一緒に訪問しませんか？
新しいメータオ・クリニックを現地派遣員の斉藤がご案内させていただきます。

日時

A日程：2018年8月5日(日)～8月10日(金) 5泊6日(バンコク集合、解散)

B日程：2018年8月26日(日)～8月31日(金) 5泊6日(バンコク集合、解散)

場所：タイ王国北西部ターク県メソト市



内容:メータオクリニックの訪問、移民学校の訪問、タイ・ミャンマー国境やミャンマー国内の見学など（予定）

参加費:8万円（タイ国内の移動費、宿泊費、コーディネート費、現地での食事が含まれます。）

*日本からバンコクまでの航空運賃、海外保険料金、現地での土産代、飲酒代、その他個人的な支出などは含みません。

*海外保険への加入はツアー参加の条件となります。

対象:1および2の条件を共に満たす方

1. JAM 賛助会員

*非会員の方は、賛助会員になっていただきます。賛助会員費：一般3,650円、学生1,825円。
(詳しくはJAMのホームページをご覧ください。)

2. スタディーツアー後の報告会に参加可能な方

定員:各日程それぞれ8名（応募多数の場合は先着順）

申込締切:2018年6月30日(土)

申込方法:下記を明記の上、support@japanmaetao.org (A日程担当:神谷、B日程担当:福田)宛にメールでお申し込みください。

件名:「2018年スタディーツアー申込」

本文:

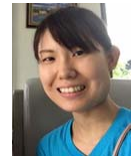
- (1) 氏名（フリガナ）
- (2) 年齢
- (3) 住所（都道府県のみで構いません）
- (4) 所属
- (5) 連絡のつきやすい電話番号
- (6) パソコンメールからの連絡がつくメールアドレス
- (7) ご希望の日程（A日程もしくはB日程）
- (8) その他（ご質問等あれば）

*申込メールを確認後、担当より正式な申込用紙をお送りします。

***その他詳細はHPの募集要項にてご確認をお願いします。**



メソトマンスリー



【メソト＝齊藤 つばさ】

最近のメソット

いつもご支援いただきありがとうございます。メソットは雨が降る日が増えて、もうすぐ rainy season に入りそうです。雨が降ると涼しくなるので過ごしやすくなります。日本にいた時は、こんなに梅雨を待ちわびたことはなかったですね。

看護スタッフから看護スーパーバイザーが選出されます！

メディックには既に、各科に*1 インチャージ、スーパーバイザー、シフトリーダーなどの役割があり、診療・治療だけでなくシフト管理や業務割り当てなどを、現地スタッフのみで行っています。短期の海外ボランティアの医師やコンサルトの医師は、医療知識の提供という形で診断のサポートや重症患者のコンサルトなどに関わっています。（*1 インチャージは、病棟全体の責任者、スーパーバイザーは日本での病棟主任のようなポジション、リーダーは各シフト内の責任者。）

スタッフが業務中になにか問題があれば、まずはリーダーへ報告し、リーダーが判断できなければその上のスーパーバイザーやインチャージへ報告という感じです。また、出勤の有無やシフト管理などはインチャージの仕事となります。

さて、私は「今まで看護師の仕事とは何か？」を実際にみせて指導するということで、スーパーバイザーやリーダーの様な役割を担っていました。具体的には、看護スタッフが行なった看護アセスメントや看護問題の内容についてアドバイスする。引き継ぎの内容について書き方の指導や過不足の情報などをコメントする。病棟で行われている看護ケアの技術指導。業務の優先順位をつけ、スタッフへ業務の割り当てを行うなどです。

メディックは看護研修を受けていないので、看護スーパーバイザーの役割は理解していますが、これらの指導は出来ません。

今後も海外ボランティアの看護師が看護スーパーバイザーの役割を担っていたら、看護スタッフが自立できません。そこで、看護スタッフがリーダーシップをとって行動出来るように5月にリーダーシップトレーニングを5日間行いました。

看護スタッフはまだ看護の経験が2年程度と短いので、インチャージではなくその下のスーパーバイザーの役割となります。6月以降、各科の看護スーパーバイザーを選定していきます。私は今までの役割から看護スーパーバイザーへのアドバイザーへととなり、今まで私が行なっていたことを、看護スーパーバイザーが1人で行うことが出来るようにアドバイスやサポートを行なっていきます。

今回はリーダーシップトレーニングの内容をご紹介します。

最初の3日間は基礎の内容として、「リーダーシップとは？、スタッフとのコミュニケーションの取り方、スタッフのモチベーションの維持の仕方」などをクリニックのマネージャーから学んでいました。

残りの2日間は海外看護師ボランティアで、看護師の仕事に特化した内容で「チームワークとは、看護ケアの優先順位の付け方、看護スタッフへの業務配分の仕方、問題解決方法」などを講義やワークショップを通して行いました。



例えば、「5分間であなたが思うリーダーシップをレゴブロックで表現してください。完成した作品を3つの言葉で説明をしてください。」というお題では、一人ひとり作成した作品も違いますし、リーダーシップについての考え方も異なっていて、とても興味深かったです。

写真1：人によって形が全然違う。

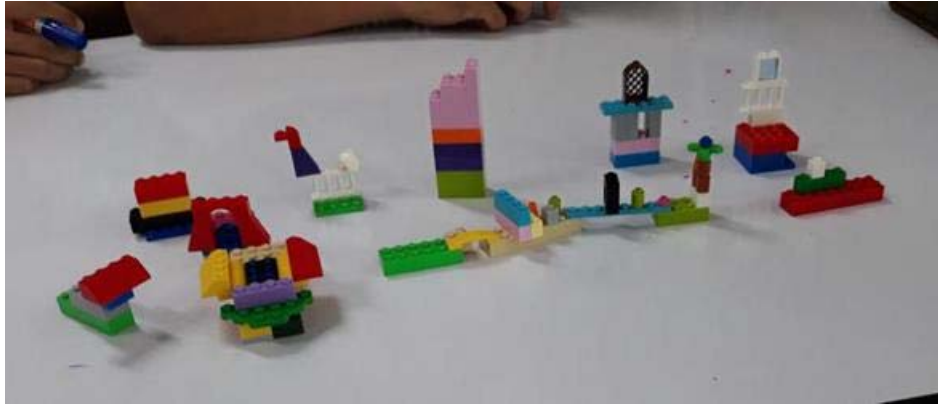


写真2：リーダーシップをブロックで表現して、説明しているところ。「形は飛行機です。リーダーはフロントで真っ先に困難に立ち向かう、みんなを導く、みんなを励ます」



また、チームワークについて学ぶため、レゴブロックを使用して「1人、1ブロックを交互に組み立てて、チームで背の高い作品を作ってください。ただし会話をしないこと」というお題を出しました。

「基礎をしっかり作りたい人、基礎は一つで細長くどんどん積み上げたい人など様々な考えがあり、チームメンバーがどう思いながらブロックを付けているかという考えをくみ取りながら、組み立てていく必要があります、会話なしで完成させるのは大変だった。」という意見がありました。そして、チームメンバーの意思を汲み取るために、「相手をよく観察した。」「アイコンタクトを使った」などの意見がでました。

そして、もし病棟内で会話出来ない状況だったらどうしますか？(患者の前で手技を間違えているなど)と質問すると、ボディランゲージを使う、他の言語(ポーカレン、スコカレン、ミャンマー語など)、他のスタッフ(メデックを含む)に伝えてもらう様にして意思疎通を図るなどの意見が出ました。

優先順位の付け方では、緊急度の高い状態、中程度の緊急度、緊急を要しない状態について講義しました。その次に、日々の業務(バイタルサインの測定、配薬など)、急変した患者(急に吐いた、創部から出血がみられる)、看護師の介助が必要な患者(一人でトイレまで歩けない、寝返りがうてない)など、よくある出来事を私たちが紙に10個書き出し、「これらの仕事の優先度について考え、業務配分はどうしますか？」というお題を出しました。

写真3：優先順位をグループ内でディスカッションしている様子



もし、看護スタッフだけでは足りない場合にメディックと協力するために、どうコミュニケーションを取ればいいのか、という質問には「メディックのリーダーに看護スタッフの状況を説明し、メディックが出来る業務（バイタルサイン測定や配薬など）を分担するのがいいと思う。」という意見が聞かれました。

写真4：発表している



リーダーシップトレーニング後のスタッフの変化

事例

数ヶ月前に脳梗塞（もしくは脳出血）既往の疑いがあり昏睡状態、褥瘡の治療のために外科に入院している患者 A。入院して1週間ほど経過した頃、痙攣や血圧の上昇がみられるようになっ

た。この原因として、再脳梗塞や脳出血（その他脳疾患）などが考えられるが、メータオ・クリニックには、検査できる物品がなく、診断が出来ない。メソト病院へ受診すれば、診断・治療が出来るかもしれないが、この状態では転送しても治癒する見込みは少ないと考えられるので、クリニックからの転送ではなく、患者個人に受診してもらう形となる。

リーダーシップトレーニングに参加した看護スタッフから今後のどう対応するか？と相談されました。

クリニックでの治療方針を明確にするために、メディックと話し合った方がよいと提案しました。看護スタッフから「そうだよ、僕も、転送しても助かるかどうかはわからないけど、クリニックでは褥瘡の処置しかできないことは家族に伝えた方がいいと思う。

メディックと話し合おう。」と返答されました。

メデックとの話し合いでは、看護スタッフが自ら、患者の状態・メソト病院への転送の有無、クリニックでは褥瘡の処置しか出来ないことを伝えるのかなどを話し始め、話し合いの結果、メデックから患者へ「クリニックからの転送は出来ない、患者個人の負担でメソト病院へ受診の希望があるか確認する。クリニックでは入院当初の褥瘡の治療しか行えないという説明をする。」という方針を決めた。

トレーニング前の同様の状況では、「メディックと話し合うのはいいけど、話すのは君だよ？僕は横にいるだけだよ？」と確認されていたので、この積極的な変化に驚きました。

今までは、「君がそう思うなら、そうするよ。」と私の意見をフォローしているだけだったのが、自分が患者とどのように関わられるか？また、看護スタッフとして自分に何が出来るか？と考えているように感じます。この変化はとても素晴らしいです。

国内から

【東京＝田邊】

メータオ・クリニック支援の会の活動に、いつも温かいご理解、ご支援をいただきありがとうございます。事務局の田邊と申します。現在アフリカ西部コートジボワールで勤務しているため、イベントなどで支援者の皆様と直接お会いする機会が減ってしまったことが残念ですが、遠方からできる会の活動をこれからも続けさせていただければと思います。

現在子育てをしながら仕事をするという機会を得、メータオ・クリニックという職場が子育て中のスタッフに対して寛容であったことを思い出しています。以前は「とにかく子どもが多いところだなあ」くらいにしか思わなかったのですが、生活が変わると視点が変わるものですね。

クリニックにあふれる子どもの多くは患者さんの家族ですが（ミャンマーの遠方から受診するケースも多く、入院中は家族全員がクリニックに滞在することが多い）、その中にはクリニックスタッフの子どもも混ざっています。スタッフは子連れで出勤します。日本の職場と違ってスタッフが多いので、お母さん、お父さんが診察や処置をしている際は同僚が子守りをするのです。大家族で子どもに慣れているミャンマー人、とりわけカレン族は、男性も女性も子どもを見ると自然に抱き上げてあやします。当時子どもと接した経験が少なかった私は、子どもを差し出されてもどのように扱っていいものか分からず、どきまぎしたのを覚えています。

午後になると学童期のスタッフの子どもたちが学校からクリニックに帰ってきます。外科病棟の医長は毎日バイクで近所の学校に息子を迎えに行っていました。彼の奥さんはとなりの産科病棟で働いていましたが、息子はバイクが好きだからと、お迎えは彼の役目でした。医長の息子は、お父さんの退職時間まで病棟のスタッフや、患者さんの子どもと遊んだりし



ながらクリニックで過ごします。外科病棟は、出血の多い処置や手術も多く、子どもを遊ばせることに当初は閉口しましたが、徐々に彼らのスタイルに慣れました。

週末には、時折スタッフの子どもの誕生会に招待されました。日本では子どもの誕生会に仕事仲間が入り込むことは考えにくいのですが、お父さんが職場の同僚や部下を自分の家に招き、子どもの誕生会を開くのが通例でした。男性がウイスキーやビールを飲みながらケーキを切り、子どもと遊ぶのが印象的でした。

私事を職場に持ち込まないのを美德とする日本の文化にはまず馴染まない光景ですし、メータオ・クリニックという特殊な環境だからこそそのスタイルであったことは確かです。しかし、女性の活躍も少子化対策も行き詰まりがちな日本において、「社会で子どもを育てる」という古い知恵が未来的に導入できたら、もう少し光が見えるのではと思返すことがあります。

東京に戻って私が感じたのは、子どものいる生活空間と大人だけの生活空間が完全に分かれていて、子連れで、または子どもがいないのに、もう一方の生活空間に入ると、なんだか居心地が悪いこと。子どもがいないことで（信じられないことに2018年になってもなお！）マイナスの発言を受けることがあるし、子どもを持つことで社会での活躍を制限され、自己評価の低下につながることもある。一方で働きながら子育てをすれば、「私事で皆様にご迷惑をかけ申し訳ありません」という台詞を無限に繰り返すことになる。日本の女性は本当に大変、の一言です。

実際多くの方が、子どもを持たなくても金銭的にも労力的にも日本の子育てに貢献しています。しかし実感として感じにくい。追い打ちをかけるように「人様の子の税金で老人ホームに行くのか」なんていう発言が、政治家から飛び出したりする。一方子どもを持ち育てるのは自己責任、自己負担という意識も根強い。もう少し、子どもの存在が身近で、自然に子育てに助けの手を差し伸べられ、助けを求められる環境だったら、もう少し生きやすいのではないかと思うことがあります。

今回子育ての話をするにあたって、敢えて「私事で恐縮ですが・・・」という前置きを削除しました。子育てに関して、そんな前置きが不自然になる将来が、いつか来ることを願ってやみません。

ミャンマー難民の習慣は、私たちの倫理感や衛生観念に照らすと改善が必要と思うことも多々ありました。でも自分の生き方に違う視点を与えてくれたこともありました。メータオでの勤務の経験からずいぶん時間が経ってもなお、人生のいろいろな場面で、メータオで得た経験が、今の自分にヒントをくれるのを感じています。

編集後記

最近、スマホのアプリでパズルゲームをダウンロードしてしまいました。

友人から「結構、おもしろいよ」とすすめがあり。

まあまあパズルゲームは得意ですし、まあまあクリアできる自信があるので、課金は絶対しないというポリシーのもと、うっかりすると1時間以上。。。(クリアできつづけてしまうので、なかなかゲームオーバーにならない)

フルタイム勤務だし、家のこともあるし、毎日時間なくて慌ただしいっていうのに。

ん??あれ?この時間って普段、捻出できていないのではなかったっけ??私だけ1日26時間あるのか?

つまり、この捻出できてしまったゲームの時間。時間の使い方を改めて見直そうと思います。



次号の予定

次号は、7月中～下旬ごろ配信の予定です。
インスタ、ツイッター、ホームページも、随時更新していきますのでぜひ、お時間があるときにご覧ください。

メータオ・クリニック支援の会(JAM)の活動を支援して下さり、心より御礼を申し上げます。JAMの活動は皆さまからの温かい寄付によって支えられ、院内感染予防活動、移民学校での啓発活動など様々なプロジェクト・設備投資を実施しています。
支援の輪が広がっていくよう、どうぞ当会のFacebookもフォローして「いいね」や「リツイート」で応援してください。

当会では、都度の支援金の受け入れとともに、「1日10円からの支援」を基本とし、継続的なご支援をお願いする賛助会員制度を用意しております。

【一般会員】3,650円/年 【学生会員】1,825円/年 【法人会員】36,500円/年
当会ホームページにアクセスしていただき、お申し込みフォームから会員登録のうえ、指定の口座へのお振込をしていただきますと、賛助会員として登録させていただきます。詳しくは当会ホームページをご覧ください。



NPO法人メータオ・クリニック支援の会 Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM)

日本事務局宛て Eメール	support@japanmaetao.org
JAMウェブサイト	www.japanmaetao.org
Facebook	Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM) で検索して下さい。 https://www.facebook.com/JapanAssociationforMaeTaoClinic/
Instagram	https://www.instagram.com/japan_association_maetaoclinic/
Twitter	https://twitter.com/japanmaetao

※掲載されている全ての内容、文章の無断転載を禁止します。

